

わたしの旅・山陽道・瀬戸内①

一杉 秀樹

東海道・中山道は有名であるが山陽道（五十一次）となるとどうもイメージが湧かない。これは実地に見ておかねばならない。だがここには瀬戸内海という交通路があり、それとの関係をも知らねばならない。東西に長いことから、その西側、広島と山口に絞って計画を立てた。結論からいうと、山陽道を辿るというより瀬戸内を辿る旅になってしまった。

広島空港からバスで三原に着く。ここから竹原、大崎下島、大崎上島、呉、岩国、柳井、周防大島、最後の骨休めが俵山温泉、八日間の旅である。

山陽道は時代とともに経路が変遷しており、江戸時代には城下町三原を通っていた。かつては浮き城と呼ばれていた三原城は埋め立てで海からは少し離れかつその一部が削られJR三原駅の一部となっている。名物の蛸料理の店で昼食をとったが、予想通り不味かった。

山陽本線は主要な城下町を繋ぐ格好で山陽道に沿って三原から西条を経て広島に至る。瀬戸内を眺めようと三原からは呉線に乗る。山陽本線のこのあたりは勾配が急であり、結果海沿いの呉線が別に敷かれたものと思われる。工場地帯などないのんびりとした海岸線の旅である。なお新幹線は距離短縮のため山中をトンネルで結ぶため眺望の無い無粋な路線である。

呉線の途中下車の最初は竹原である。竹原はその昔製塩業で栄え、古い町家が軒を連ね、ぶらぶらするには悪くない風情がある。途中には二ツカ創業の竹鶴政孝の生家が竹鶴酒造として残っていたりする。

竹原での下車は翌日大崎下島へのフェリーに乗るためでもある。大崎下島は大ぶりの島で、西端でいくつかの島伝いに本土と結ばれているが、島の東端には風待ち港として栄えた御手洗の集落がある。そこへのフェリーは竹原早朝発の一番のみである。瀬戸内の各町には必ず近辺の島や四国へのフェリー発着所があるが、竹原の港は街中から歩いて二十分と少し離れたところにあった。乗りなれた風を装ってはみたが内心緊張して乗船を待つ。小生にとって初めての瀬戸内フェリー旅の始まりである。